

7章 執筆力

1年 組 番氏名

今回の授業の位置づけ

- 探究活動の最終的な作業として位置づけられているのが、「発表・まとめ」である。今回は探究活動の成果を発表する際の主たる形態である、学術的文書（いわゆる論文・レポート）にまとめる際の「執筆力」について学ぶ。
- 探究活動における「発表・まとめ」は、探究課題の解決策を他者に向かって伝え、一方で他者の考えも聴くことで自らの考えを拡げることにつながります。実際に実行した結果から、本当にその案でよかったのかと振り返りを行い、今後につなげていくことが必要である。言い換えるなら、本章は問題解決における「伝え共有し、実行し振り返る」ためのステップと考えることができる。

ねらい

- 学術的文書を執筆する基本的能力を習得するために、ワークを通して学術的文章の特徴を理解する。
- 学術的な構造（A：問題提起、B：根拠に基づく結論、C：証拠の提示）を理解する。
- 論理を明確にするための技法である「パラグラフ・ライティング」について理解する。

1. 学術的文章とは？

学術的文章の「3要件」とは、以下のことをいいます。

- (1) 何らかの「問題」を提起している。
- (2) 問題に対して、「理由」を示しながら、論理的に「解答」（結論）している。
- (3) 理由を裏付けるために、「証拠」を提示（文献やデータなどの資料を引用）している。

参考文献『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（山田剛史、林創著 ミネルヴァ書房 2011 p134）

- 課題1**
- ①例文の学術的文章の「3要件」に該当する部分にそれぞれ線を引いてください。
 - ②学術的文章といえるものをすべて選んでください。

例文1 このレポートで、私は「自分の成長」と題して、人の心の発達に関するレポートをまとめたい。高校までの私は、クラブ活動に打ち込んだり、ボランティアをするなど、自発的に多くのことに取り組んできた。しかし、自分がいったいどのように成長し、心が発達したのかと考えたことはなかった。そこで、自分の成長を知ることを目指して、このレポートを書いていくことにする。……（以下、略）

例文2 人の心の発達において、「心の理論」という概念がある。これは、他者の行動を、意図や信念や知識といった心の状態を想定して理解する枠組みのことである。子どもが心の理論を何歳頃から獲得するかについては、「誤信念課題」によって調べられる。「誤信念課題とは」、……点（以下、その説明をしている）…（中略）…以上から、心の理論は幼児期に発達することがわかる。

引用文献『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（山田剛史、林創著・ミネルヴァ書房・2011・p135～136）

例文3 最近、学校に行けなくなる不登校の児童・生徒が急増していると言われている。これは、今の学校教育が型にはまった勉強ばかりを押し付け、子ども一人ひとりの個性を大切にしていないことが大きな原因ではないだろうか。自由を奪われた子どもたちの心が悲鳴を上げているのだと思う。私は、すべての子どもが笑顔で通える「理想の学校」を実現したいと心から思っている。大学では、子どもの個性を伸ばす教育とは何かを自分の体験に照らし合わせて考え抜き、将来は子どもたちの良き理解者となって、彼らを全力で支えていける教育者を目指して努力していきたい。

例文4 一般に、子供は成長する過程で、親や教師から「うそをつくな」と繰り返し教えられるものである。この背後には、「うそは悪いこと」という考えがあると思われる。しかし、子供の心の発達にとって、うそは悪いことなのであろうか。

たしかに、子供は成長するにつれて、相手の心に敏感になり、相手の知らないことを見抜いてうそをつくようになる。自分の欲望を満たすために、うそをついて相手を傷つけることは、子供といえども許されることではない。しかし、相手の心に敏感になるということは、物事を相手の視点から考え、共感できるようになることでもある。例えば、嬉しくないプレゼントをもらっても、しだいに笑顔が出来るようになる。これもうその一種といえるが、「相手を傷つけないためのうそ」である。このように、他者の感情を推測して自分自身の感情の表出や行動をコントロールすることを「表出ルール」という（清水、2009）

こうした表出ルールの発達を考えると、うそは社会性の発達の現れとも考えられるだろう。それゆえ、子供の発達にとって、うそはかならずしも悪いものではないと思われる。

【引用文献】清水由紀(2009). 児童期②：友人とのかかわりと社会性の発達 藤村宣之（編著）発達心理学－周りの世界とのかかわりながら人はいかに育つか ミネルヴァ書房 pp.108－124
また、一部例文は生成 AI を活用し、作成したものである。（2026.4.1）

2. 学術的文章を作成するためのポイント

まずは、「事実と意見の区別」について述べた以下の文章を読み、その内容を理解しましょう。

「事実」は証拠をあげることができるもので、「意見」はある人が考えた判断のことです。たとえば、「東京は日本の首都である」は事実ですが、「東京は日本の魅力的な都市である」は意見です。なぜなら、東京が日本の首都であることは、文献や資料などを提示して証明できますが、東京が魅力的な都市かどうかは主観的なものであり、魅力を感じる人もいれば、感じない人もいるからです。

理由の確からしさを考える上で、事実と意見の区別が大切です。

たとえば、

ア) 東京は日本の首都である。だから、東京に空港整備の予算を重点配分すべきだ。

イ) 東京は日本の魅力的な都市である。だから、東京に空港整備の予算を重点配分すべきだ。

を比較すると、同じ結論であっても、後者の方がより弱く感じませんか。それは、前者の理由は事実なのに対して、後者の理由は意見なので、主観的で結論を十分に支えきれないからです。

【引用文献】『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（山田剛史、林創著 ミネルヴァ書房 2011 p 121）

このように事実と意見を意識していくために以下の文章を添削(リライト)する過程を体験します。

課題2

以下の短文を、学術的な構造（A：問題提起、B：根拠に基づく結論、C：証拠の提示）へとリライトする練習をしましょう。リライトのポイントは、「スマホ＝悪」という主観的な思い込み（隠れた前提）を排除し、客観的なデータや論理的な推論（Why So?）に置き換えることです。

最近の調査では、毎日3時間以上スマートフォンを利用する中学生は、利用時間が1時間未満の生徒に比べて、テストの平均点が低いという結果が出ている。したがって、中学生の学力を向上させるためには、保護者がスマートフォンの利用を厳しく制限すべきである。スマホを長時間使うことで勉強時間が減り、集中力も低下するため、成績が悪くなるのは当然と言えるだろう。

以下の空欄[①～③]の部分を、客観的な表現で埋めてみてください。

（A：問題提起）

近年の調査において、スマートフォンの長時間利用と学力低下の関連性が指摘されている。しかし、単に利用を制限するだけで学力が向上するかについては、[① 言葉の定義や因果関係] を慎重に検討する必要がある。

（C：証拠の提示）

[② 具体的な根拠] によれば、スマホ利用が3時間を超える生徒は、学習時間の減少だけでなく、睡眠不足による集中力の低下を招いている可能性が高い。一方で、学習アプリや調べ学習にスマホを活用している生徒については、負の影響が見られないという報告もある。

（B：結論）

以上のことから、中学生の学力向上のためには、一律の利用制限を行うよりも、[③ 解決策の提示] というメタ認知的知識を身につけさせることが有効であると考えられる。

① _____

② _____

③ _____

3. わかりやすい文章について考える

パラグラフ・ライティングとは、「1つの段落（パラグラフ）には、1つのトピック（主題）だけを書く」というルールのことです。これにより、読み手は迷うことなく論理の道筋を追うことができます。まずは、「パラグラフ・ライティング」に関して述べた以下の文章を読み、その内容を理解しましょう。

1. パラグラフの基本構造

1つのパラグラフは、通常以下の3つの要素で構成されます。

トピック・センテンス（主題文・要約文）：その段落で最も伝えたい「結論」を最初に書きます。読み手はこの1文を読むだけで、その段落の内容を予測できます。

サポーティング・センテンス（支持文）：トピック・センテンスを裏付ける「理由」や「証拠（データ・

文献)」を詳しく説明します。ここで「クリティカルシンキング」に基づいた客観的な情報を提示します。

コンクルーディング・センテンス（結論文）：段落の内容をまとめ、次のパラグラフへのつなぎ役を果たします。

2. なぜパラグラフ・ライティングが必要か

学術的な文章において、この技法が重視される理由は以下の通りです。

論理的思考（ロジカルシンキング）の可視化：「So What?（だから何?）」に対する答えがトピック・センテンスになり、「Why So?（なぜそう言えるのか?）」に対する答えがサポーティング・センテンスになります。

「読み方」の効率化：各段落の先頭（トピック・センテンス）だけを拾い読みする「スキミング」が可能になり、論文全体の構成を素早く把握できます。

メタ認知の助け：書いている本人が「今、自分はこの段落で何を証明しようとしているのか」を常に意識（モニタリング）できるため、論理の脱線を防げます。

4. パラグラフ・ライティングの構造を知る

パラグラフ・ライティングに慣れるためには、文章の構造について理解を深めることが必要です。まずは、「ピラミッド構造」に関して述べた以下の文章を読み、その内容を理解しましょう。

ここでは、バーバラ・ミント（『考える技術・書く技術』 1973）が考案したピラミッド構造を使って、文章構造の整理の仕方を学んでいきましょう。

ピラミッド構造とは、文章の中で述べたいことをピラミッド型の形で整理する考え方のこと。「高校生と大学生との違い」についての文章を書くことを例にとり、みていきます。

（1）箱を一つ書き、主題を書く

まずは箱を一つ書き、そこに文章を通してあなたの伝えたい意見や主題を書きます。

（2）「なぜ（どうして・どうやって）？」に答える

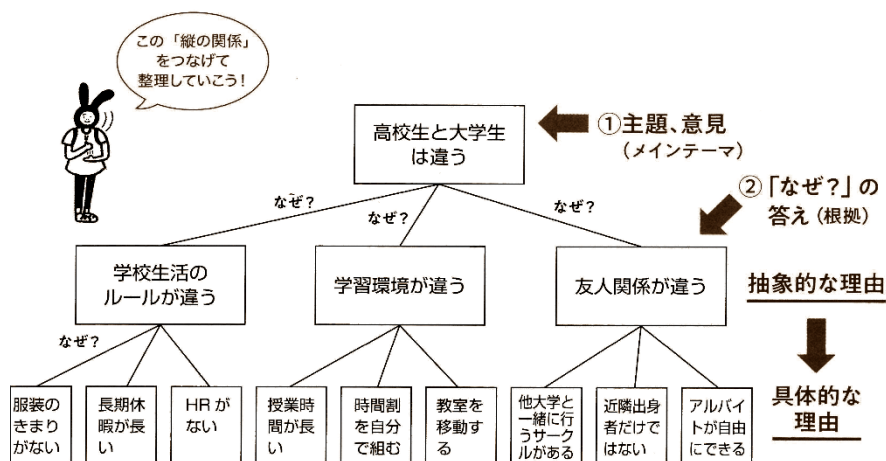
次に、その下に枠を作り、主題に対し、「なぜ?」と問いかけた答えを書きましょう。もちろんその際の答えは一つとは限りませんので、考えうるものを書き留めておきます。

項目が多すぎる場合は、それらのいくつかをまとめてグループにくくれないかを考え、二つか三つほどにまとめておきましょう。

（3）疑問がなくなるまで「なぜ?」を繰り返す

実際にピラミッドを基に、文章を書いた後のことを考えましょう。文章は自分のためではなく、読み手の疑問を解決するために書くものです。読んでくれる相手のことを考え、疑問が解決できている、と思える状態まで繰り返し問いかけます。

例えばピラミッドの完成のイメージは、次の図のようになります。



今回の授業の位置づけ

- 探究活動の最終的な作業として位置づけられているのが、「発表・まとめ」である。今回は探究活動の成果を発表する際の主たる形態である、学術的文書(いわゆる論文・レポート)にまとめる際の「執筆力」について学ぶ。
- 探究活動における「発表・まとめ」は、探究課題の解決策を他者に向かって伝え、一方で他者の考えも聴くことで自らの考えを拓けることにつながる。また、実際に実行した結果から、本当にその案でよかったのかと振り返りを行い、今後につなげていくことが必要である。つまり言い換えるなら、本章は問題解決における「伝え共有し、実行し振り返る」ためのステップと考えることができる。

ねらい

- 学術的文書を執筆する基本的能力を習得するために、ワークを通して学術的文章の特徴を理解する。
- 論理を明確にするための技法である「パラグラフ・ライティング」について理解する。

時間	ねらい・内容・留意点
課題 1 (12分)	1. 学術的文章とは？ ねらい【2分】 ○授業の位置づけを理解する。 ※最初に「今回の授業の位置づけ」と「ねらい」を精読させ、理解させてください。 内容【10 分】 ※先生はタイムキーパーとなり、ワークに取り組ませてください。 ※時間はあくまでも目安です。実際の生徒の動きをみながら、柔軟に対応してください。 1 原則 4 人のグループをつくる。 2 例文の学術的文章の「3 要件」に該当する部分にそれぞれ線を引いてください。 3 学術論文といえる例文を選び、班の中で線を引いた箇所や選んだ理由を共有する。 4 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。 ※ワーク1は、学術的文章について理解を深めることを目的としたものです。 先生は生徒の様子をみながら、タイムキーパーをお願いします。 ※必要に応じて、解答の提示をお願いします(各グループに配布)。 【課題1 解答例】 ①学術的文章の「3 要件」に該当する部分を含む例文は 3・4 である。 (傍線箇所は下記解答例参照) ②例文 3・4 のうち、学術的文章といえるのは、理由を裏付ける「証拠」を提示(文献やデータなどの資料を引用)している 4 である。

課題2 (6 分)	2. 学術的文章を作成するためのポイント ねらい ○学術的文章を作成するために必要な技術について、ワークを通して理解する。 内容【6 分】 【ワーク】 ※先生はタイムキーパーとなり、ワークに取り組ませてください。 ※時間はあくまでも目安です。実際の生徒の動きをみながら、柔軟に対応してください。 1 「2.学術的文章を作成するためのポイント」を各自で読む。 2 空欄[①～③] の部分に入る文章を班で考える。 3 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。 ※必要に応じて、解答の提示(スライドあり)をお願いします。 【解答例】 下記参照 課題2の解答例 因果関係 「利用時間」と「学力低下」の間の因果関係  具体的な根拠 文部科学省の「全国学力・学習状況調査」 「厚生労働省」などもあり  解決策 自分のスマホ利用状況を客観的に把握する 
課題3 (3 分)	ねらい ○パラグラフ・ライティングの構造を理解し、読みやすい文章の書き方について考察する。 内容 「3. わかりやすい文章について考える」「4. パラグラフ・ライティングの構造に慣れる」についてスライドを提示する。(以下のスライドに基づいて説明する) 小論文・レポートのための「最強の設計図」 才能ではなく、3つのステップで論理を組み立てる 
振り返り (3 分)	内容 ○リフレクションシートに記入。Classi アンケートにも回答する。

【課題1 解答例】（生徒提示用）＊スライドあり

例文3 最後は自己完結しているので、論文とはいいいがたいが、問題点の指摘はしている。

最近、学校に行けなくなる不登校の児童・生徒が急増していると言われている。これは、今の学校教育が型にはまった勉強ばかりを押し付け、子ども一人ひとりの個性を大切にしていないことが大きな原因ではないだろうか。自由を奪われた子どもたちの心が悲鳴を上げているのだと思う。私は、すべての子どもが笑顔で通える「理想の学校」を実現したいと心から思っている。大学では、子どもの個性を伸ばす教育とは何かを自分の体験に照らし合わせて考え抜き、将来は子どもたちの良き理解者となって、彼らを全力で支えていける教育者を目指して努力していきたい。

例文4 一般に、子供は成長する過程で、親や教師から「うそをつくな」と繰り返し教えられるものである。この背後には、「うそは悪いこと」という考えがあると思われる。しかし、子供の心の発達にとって、うそは悪いことなのであろうか。

たしかに、子供は成長するにつれて、相手の心に敏感になり、相手の知らないことを見抜いてうそをつくようになる。自分の欲望を満たすために、うそをついて相手を傷つけることは、子供といえども許されることではない。しかし、相手の心に敏感になるということは、物事を相手の視点から考え、共感できるようになることでもある。例えば、嬉しくないプレゼントをもらっても、しだいに笑顔が出来るようになる。これもうその一種といえるが、「相手を傷つけないためのうそ」である。このように、他者の感情を推測して自分自身の感情の表出や行動をコントロールすることを「表出ルール」という（清水、2009）

こうした表出ルールの発達を考えると、うそは社会性の発達の現れとも考えられるだろう。それゆえ、子供の発達にとって、うそはかならずしも悪いものではないと思われる。

【課題2 解答例】（生徒提示用）

以下の空欄[①～③]の部分を、客観的な表現で埋めてみてください。

（A：問題提起）

近年の調査において、スマートフォンの長時間利用と学力低下の関連性が指摘されている。しかし、単に利用を制限するだけで学力が向上するかについては、[① 言葉の定義や因果関係]を慎重に検討する必要がある。

（C：証拠の提示）

[② 具体的な根拠]によれば、スマホ利用が3時間を超える生徒は、学習時間の減少だけでなく、睡眠不足による集中力の低下を招いている可能性が高い。一方で、学習アプリや調べ学習にスマホを活用している生徒については、負の影響が見られないという報告もある。

（B：結論）

以上のことから、中学生の学力向上のためには、一律の利用制限を行うよりも、[③ 解決策の提示]というメタ認知的知識を身につけさせることが有効であると考えられる。

① 「利用時間」と「学力低下」の間の因果関係

② 文部科学省の「全国学力・学習状況調査」

③ 自分のスマホ利用状況を客観的に把握する